

# あなたが地域の主人公

3

市民活動団体は、「若者がなかなか活動に参加してくれない」としばしば嘆く。

今の若者に社会参加の気持ちがないからだろうか。

彼らは生まれた時から不況下で育ち、昔のような右肩上がりの幻想は持っていない。学校を卒業して社会人になり、仕事中心に懸命に働く、そんなライフス

## 若者のボランティア

タイムは初めから頭がないのだ。彼らは在学中も、卒業後も本業以外の居場所を見つけ、そこにも生きる意味を見いだそうとする。その意味では昔の若者より、仕事以外の社会参加をして

0人を超えるくらい。卒業まで全く参加しない学生も多い。学生時代に横須賀の児童養護施設でボランティアをした廣江水月さんは「ボランティアをやりたい人はた

## 参加へ背中に一押しを

みたいという意識は高いのだと思う。

サポートセンターでは毎年、多くの学生ボランティアを市のイベント等にコーディネートしている。登録学生は500を超える。だがその中で実際にボランティアを行う学生は年10

くさんいても、行動に移せない仲間が多かった。サポートセンターでボランティアを紹介してもらい人生が変わった」と語る。背中の一押しが必要だよつだ。学生の社会参加、地域参加を推奨する県立保健福祉大学の金龍哲・学部長に、



道路施設の落書きを消し、街の美化に汗を流す高校生や大学生のボランティアグループ

なぜ学生にボランティアをさせたいのかお聞きした。「東日本大震災やカンボジアのボランティアに学生と参加しました。現地での経験を学生の変化にいつも驚かされます。帰りの

のバスで次の訪問を計画する、ちょっとした関連ニュースに耳を傾ける、人ごとではなく自分事としての『共感』がそこに生まれるのです。福祉系の学生なので、知識としてボラン

ティアや社会参加の必要性は理解していますが、実際の経験が伴うことで福祉の実践者が生まれてくるので」と語った。

一緒に子どもたちの野外活動を企画し、共に汗を流した。彼らの中には卒業してもなんらかの形でボランティア活動を続けるOBが多い。若い頃に社会参加することが若者の成長に、そして健全な社会のありかたに絶対必要だと信じている。若者がなかなか参加しないと嘆くのではなく、地域が若者を受け入れる土壌づくり、若者の自由な発想が生かせるような受け皿づくりが必要と思う。若者が主役となる地域社会を目指したい。

(横須賀市立市民活動サポートセンター館長・高橋 亮)